



洋書輸入協会会報

Vol. 28 No. 1 (通巻320号) 1994年1月

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

1994年1月1日



理事長 海老原熊雄

昨年の特筆すべき出来事といえば、12月15日（日本時間16日午前1時）、関税貿易一般協定・多角的貿易交渉（ガット・ウルグアイ・ラウンド）は世界117ヶ国参加のもとに、7年余りに及ぶ史上最大の貿易交渉が決着したことでしょう。これで「ガット」は新多角的貿易機構（MTO）に吸収され、世界銀行、IMFと肩を並べる国際機関として生まれ変わることになり、本年7月には世界貿易機構（WTO）設立、発足の運びとなる見通しです。

この新しい経済時代のスタートにあたり、現在各国とも不況や高い失業率を背景に内向き志向にあって、地域

主義、国内産業保護圧力が高まってきていることも事実です。わが国もこの新しい自由貿易ルールの中で、生き残りをかけるには企業のリストラと新たな創業を目指さなければなりません。

この世界的な激動期のなかで、経済面のみならず社会面文化面でも世紀末ともいうべき多種多様の苦難に直面して悪戦苦闘を余儀なくされています。これは21世紀をいよいよ数年後に控え、やがて産み出されるべき新秩序と新しい文化の創造に向けての陣痛とでもいうべきでしょうか。

新年の挨拶 理事長 海老原熊雄…1	海外ニュース ……3	総代理店ご案内 ……7
年頭所感 榊医学書院	洋書輸入協会史(85) ……4	おしらせ ……7
金原 優 ……2	東京の坂と橋と文明開化(41) ……6	編集後記 ……7
理事会報告 ……3	うちの会社 ……7	広告 ……8

わが洋書業界も外資の参入に加え、予想以上の円高により、外国雑誌の商売に見られるように前年に比べ大幅な低価格での納入契約を余儀なくされています。更に、デフレ環境の影響は、値下げにもかかわらず洋書需要拡大の刺激につながらず、昨年は会員の皆様も苦闘の毎日だったと思います。

本年も景気の低迷から脱するのはどうやら先のこと、長期停滞の様相が続くとの見方もあり、当分市況の好転は望めそうもありません。

こうした環境と見通しの下で、わが洋書業界もひとり枠外にあり得ず、円高・低価格と需要停滞からくる高コ

ストの中で厳しい対応を迫られる年になりそうです。

同業者には同業者共通の仕事の厳しさやその対処の仕方があります。こうした局面では、我々は企業体質の強化を図り、競争は競争として公平に受入れ、かつ業界秩序が混乱に陥ることのないよう、足並みをそろえた進み方が必要でしょう。

それには不断の相互理解に努め、協力して困難を克服し、相互発展を目指すよう努力することが必要です。

終わりに、会員各社のご発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

年頭所感

1 ドル100円時代を迎えて

(株)医学書院 代表取締役社長 金 原 優

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は洋書輸入業界にとりまして極めて深刻な1年でありました。

その中で、二つの象徴的な記録がまだ我々の記憶に新しいと思います。その一つは1ドル100円が遂に現実のものになったことであり、もう一つは「マディソン郡の橋」の売上が30,000部を超えて我が国の洋書史上最高の売れ行きを示したことでした。

昨年初頭にはまだ125.85円（東京直物 TTS）であったドルのバンクレートが、5月27日に109.60円と110円を割り、8月6日には遂に102.35円と最高値を記録しました。時恰もその3日後に細川内閣が発足し、政治の面でも大きな変動が起こって参りました。しかし、新政権も長期に亘る景気の低迷から抜け出せるだけの施策を打ち出せぬままに年を越し、本年も明るい見通しは立っておりません。

1ドル100円時代の到来は、1973年にスミソニアン体制から変動相場制に移行した時に匹敵する程の経済変動であると思います。そのような環境の中で輸入図書取扱がどのような対応を求められているのか、かなり思い切った発想の転換をしなければ時代の趨勢に追いついて

行けないのではないのでしょうか。

「マディソン郡の橋」の売れ行きは、一般書の分野に於ける洋書講読人口の増加を示す象徴的な例と言えるのでしょうか。弊社のように限られた領域の専門書のみを取り扱う立場から見れば実に羨ましい限りですが、昨今のペーパーバックの売れ行き等を見ても、洋書は専門書が主流という既成概念を変換させなければならない時期にきているというべきでありましょう。

そのような傾向を反映してか、洋書全体の売れ行きは年間約1割ずつ伸びていると言われながら、反面、洋書輸入業者の多くが減収減益の方向に押し流されて行く事態は誠に憂慮すべきことであります。部数増と円換算価格低下との相関関係と言ってしまうとそれ迄のことかも知れませんが、円とドルあるいは他通貨との実質購買力を比較し、輸入ならびに流通にかかる諸経費の負担を考えれば、1ドル100円は極めて苛酷な環境と言わざるを得ません。

しかも、発注、送本、支払い等の手段が多様化、簡便化してきたことにより、直接発注、並行輸入が容易になり、海外図書の取扱いが貿易の範疇から外れるような現象さえ日常的に見られるようになっております。

翻って、国内の出版事情を見れば、本年は消費税率の改定とそれにも関連する再販制度問題、正味問題等が遠からず日程に上るでありましょうし、メディアの多様化と著作権問題は大きな課題となって参ります。更に郵便料金の値上げは出版ならびに流通コストの負担増に直結致します。これらは当然、輸入図書の販売にも直接、間接に影響して来るでありましょう。

理事会報告

12月17日(金)

(一) 11月分収支報告

12月9日(木)付、総務委員会審議の総務委員長の報告を承認した。

(二) 長期間(6ヶ月以上)会費未納の会員2社について、その対応を協議した結果、当該社の入会時の紹介社に前後策をお願いすることとした。

(三) 総務委員会で審議中の諸規定改訂及び委員会再編について総務委員長より概略の説明があり、総会前に纏まった答申案が提出されることとなった。

(四) 準会員として入会希望のあったチャーチル・リビングストン社の入会について審議した結果、1994年1月1日付入会を承認した。

(五) 明年1月開催の東京国際ブックフェアでの、JBIA主催のパネルディスカッションについて、司会・進行はUPSの斉藤社長、その他、パネリストとして、丸善(株)平瀬部長、(株)伊国屋 葦名部長、ハーバー・コリンズ、フランク・フォーリー日本代表、及びタトル商会のニコラス・イングルトン社長の4氏の名が紹介された。

(六) 文化厚生委員長より、12月3日開催の委員会で明年の総会は理事長改選の選挙があるため、会場が都内となることで、例年行う旅行は取り止め1年おきにしたいとの案が出され、協議したが、基本的に了承した。

海外ニュース

1992年米国書籍輸出入統計

米国商務省国勢調査部の報告によると、'92年の米国の書籍輸出額は16億3千万ドル、輸入額9億9千万ドルとなった。

そのように考えて、本年は洋書輸入業界が様々の要因によって大きな変化を余儀なくされる年になると予測しております。

政治、経済両面に亘って大きな変化が求められる時期に、我々の業界に於いても旧来の慣習を見直し、時代の要請に叶った対応を見出すことによって、将来の発展に繋がる革新の年に成し得ることを期待しております。

この統計には、前年までと同様、輸出の場合\$2,500未満のもの、輸入の場合には\$1,250未満のものは含まれていない為、実際の額よりはかなり低い数字がでていますがここ数年の推移はよくあらわれていると言えます。

'91年との比較では、輸出は9.2%、輸入は12.8%の伸びとなっている。また、輸出と輸入の比率は62対38で、ここ数年ほとんど変化していない。

なお、輸入の中には米国の出版社が製作した書籍も含まれている。

[主要輸出相手国 1991—1992] 単位=\$1000

	1992年	前年比(%)
カナダ	702,174	+ 9.1
イギリス	228,475	+ 9.8
オーストラリア	121,993	+ 3.4
日本	89,605	+ 4.6
ドイツ(西)	50,980	+ 5
メキシコ	50,968	+41.2
オランダ	33,169	-11.9

* 2500ドル未満を除く

[主要輸入相手国 1991—1992] 単位=\$1000

	1992年	前年比(%)
イギリス	205,962	+10.1
香港	187,354	+19.8
日本	91,551	+ 3.3
シンガポール	88,725	+16.1
カナダ	86,385	+49.3
イタリア	63,535	-23.2
ドイツ	49,594	+ 3.8

* 1250ドル未満を除く

—Publishers Weekly '93年11月22日号より抜粋—

99 昭和37(1962)年度(s37.4月～s38.3月)の規約改正、理事改選、新入会員、退会者など(前号よりの続き)

99.1 規約改正(前号よりの続き)

99.1.7 昭和37年度の規約改正審議に関する記事の補足
前号で述べた昭和37('62)年5月24日の定時総会と、7月26日の臨時総会における規約改正の審議の経過は、協会の公式記録であり、全くこの通りであるが、この審議の終始に立ち会った者としての所見を少々補足しておこう。

この規約改正の提案は、本部側としては以前から一部会員の間にくすぶっていたものである。理由は関西支部員は、関西支部長(即理事)を選挙し、更に本部理事を選挙している。これは二重投票ではないかということと、関西支部長は、10票の委任状を携えてきてまとめてこれを行使している。総会の出席、投票が45社から50社ぐらいの現状で、10票をまとめて投票されると、簡単に投票結果が左右されてしまう。これでは関西支部に支持されない者は理事になれないではないか、というような不満である。

洋書輸入協会の理事はすべて手弁当で、月2回の理事会の席上ではコーヒーとケーキが出るだけ。会議場への交通費は勿論、月に何度となく出掛ける官庁への陳情のための時間と交通費、陳情文作成のための時間と労力などすべて自分持ちで全くの無報酬である。業界のためのボランティアそのものである。従って理事には選挙されたから止むを得ずなって、ボランティア活動をしているものという認識が従来のものであった。ところが近来は、必ずしもそうではなく、選挙結果には相当の関心が持たれるようになってきた。もっとも、これも洋書輸入協会が発展してきて、理事会の存在が重要視されてきたという証左とも考えられる。また純粹に法律論から、理事選挙の規定の矛盾を指摘される方も多かった。

このような次第で、5月の定時総会の折はまだ議論にオブラートがかかっている穏やかであったが、7月の臨時総会では議論が沸騰し、殊に三洋出版貿易の鈴木社長(故人)と、東光堂の石内社長(故人)がこもごも立って熱っぽい議論を展開されたのが印象に残っている。

蛇足をつけ加えると、選挙というものは大人のロマン

をかき立てる面があるものらしく、選挙規定はその後もう繰り返し繰り返し問題となっている。

99.2 理事選挙の結果

前年の昭和36年度の理事改選が、「重任すべし」との緊急動議に賛成多数で可決され、結局改選が行われなかったあとをうけ、昭和37年度の理事選挙はいささか変動を生じた。昭和37年5月24日に開催された定時総会の選挙結果を、5月31日付のJBIA No. 152 は、次のように会員に知らせている。

記

投票開票の結果、下記会員が附記票数により本年度理事に選任されました。

票数	社 名	代表者
46	丸善株式会社	司 忠(再)
39	日本出版貿易株式会社	望月政治(再)
37	株式会社紀伊国屋書店	田辺茂一(再)
37	海外書籍貿易商会	福田悦夫(再 関西支部長)
33	海外出版貿易株式会社	黒田 通(再)
31	福 本 書 院	福本初太郎(再)
31	ユー・エス・エシアティック・カンパニー	山川隆雄(新)
30	日本洋書販売配給株式会社	渡辺正広(再)
27	教 文 館	武藤富男(再)
(次点 24 東光堂書店)		

5月30日午後2時30分より、丸善ピーコックにて初理事会を開きました。

1. 理事長は丸善株式会社代表者司 忠氏が全員一致で再選されました。
2. 前理事国際書房服部正喬氏は、本会設立当時より理事に選任され、本会発展に御尽力されたるものにつき、御退任に際し記念品を贈呈することに決定致しました。(以上)

なお、今回の選挙で理事を退任されることになった国際書房社長服部正喬氏よりは、次のような挨拶状が会員有志へ配布されている。

記

一前文略一

初て私こと、今回洋書輸入協会の理事の任期が満了して退職しましたについては、御心づくしの記念品を贈って頂き厚く御礼申し上げます。

回顧しますと、昭和16年春海外出版物輸入同業会が大蔵省や情報局の斡旋によって創立し、私は理事の任命を受けましてから、今春まで、(昭和20年の空白を除きますと)満20年間私共の輸入業者の組合の中枢機関の末席を汚していました次第ですが、この期間は大战の勃発前から、戦時中また戦後の輸入再開の期間を含む、我国洋書輸入史上の最も重要な時期であり、私にとっては事業生活40余年の約半分に及んでいまして、思い出の深いものであります。一以下略一

服部正喬氏は、この挨拶文と共に7月3日、国際書房ビルの5階で軽食パーティを開催するからとて招待をしておられるが、挨拶文の中には、激動の20余年を洋書輸入協会の理事として、文字通り寝食を忘れて努力された苦勞の跡が滲んでいる。知る人ぞ知るといふべきである。

99.3 新入会員

(1) 株式会社 竹内書店 東京都港区芝南佐久間町1-50

代表者 竹内 博

資本金 1,000万円 従業員 13名

創立 昭和37年2月19日

事業の種類 洋書輸入、和書販売、出版、パブリシティー・サービス

同社の入会は、昭和37年5月31日付、JBIA No. 152において、5月22日付入会と紹介されている。

(2) 株式会社 如文出版 東京都千代田区神保町1-30

代表者 加藤良三

資本金 100万円 従業員 10名

創立 昭和35年6月

事業の種類 外国科学文献輸入販売、文献複写、製本

同社の入会は、昭和37年5月31日付、JBIA No. 152によって会員に周知されている。

(3) 株式会社 美術出版社 東京都新宿区本村町15

代表者 大下正男

資本金 1,200万円 従業員 55名

創立 昭和19年3月13日

事業の種類 図書雑誌の出版、不動産賃貸業、この各号に付帯する一切の業務

同社は、昭和38年2月19日、JBIA No. 162にて入会を会員に知らされている。

99.4 退会者なし

99.5 代表者交代

(1) 日本出版貿易株式会社 新社長 望月正捷氏

昭和37('62)年6月11日の理事会に同氏が出席され、社長就任の挨拶があった。なお前社長望月政治氏は会長に就任された。

(2) 教文館 社長武藤富男氏は明治学院大学学長に就任のため教文館社長を辞任され、顧問として残り、後任は取り敢えずは空席のまま松野氏が当られる旨、同じく6月11日の理事会で報告があった。

(3) 株式会社 三善 新社長 大久保利康氏

前社長 遠藤彦彦氏は取締役会長に就任された旨、昭和38('63)年2月19日付、JBIA No.162で会員に知らされた。

99.6 社名変更と住所変更

(1) チャールス・イー・タトル商会在、株式会社チャールス・イー・タトル商會として、昭和37年7月に発足。

(2) 丸田書房が、昭和37年7月15日より、丸田洋書貿易株式会社と社名変更、同時に住所変更があった。

(3) 日本洋書販売配給株式会社が、千代田区西神田から新宿区西大久保3-10 松田ビルへ住所変更。

99.7 業界消息

(1) 米 Doubleday 社が、Feffer 社を買収、双方の機構が強化された旨、昭和38('63)年1月25日の理事会に Feffer の信木氏が出席、その報告があった。なお2月5日には Doubleday 社の President, Mr. John T. Sargent が Feffer 氏と共に来日して、帝国ホテルで関係者を集め、ティーパーティーを開催した。

(2) ナウカ株式会社、創立10周年記念祝典を開催

昭和38年2月8日、同社において開催されたが、同社はこの機会に、「創立10周年、会社の沿革と事業の概要」と題した小冊子を配布した。(続く)

◆日本におけるショーペンハウアーの受容

デカンショ節は、明治末頃第一高等学校の寮生が歌い出した学生歌である。デカンショは俗説にデカルト、カント、ショーペンハウアーを意味するといわれるが、実際には丹羽篠山の民謡の替え唄で、灘の酒作りを業とする丹波杜氏の「出稼ぎしよう」が囃し言葉に転訛したものであるという。ともあれ、デカルトやドイツ観念論など西洋哲学は、東京大学で政治学、経済学、哲学を講じたお雇い外国人フェノロサ(Ernest Francisco Fenollosa, 1853-1908)によって明治10年代に移入された。

『学燈』編集長の内田魯庵が、明治35年に各界の著名人を対象に行った有名なアンケート「十九世紀に於ける欧米の大著述」は、国の内外に大変な反響を呼んだが、この調査でショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』が第4位を獲得しており、このことから、ショーペンハウアーの思想が、この時代の日本の学芸・思想界に深く浸透していたことが理解できる。

我が国に初めてショーペンハウアーを紹介したのは三宅雪嶺の著作『哲学涓滴』(明治22年)であったが、本格的な移入は井上哲次郎によって行われた。彼は明治23年ドイツ留学を終えて帰国し、東京大学文科大学に教授として迎えられて哲学講座を受け持つことになり、西洋哲学では主としてカントとショーペンハウアーを講義した。しかし、洋書の輸入はもっと以前からみられ、東京外国語学校『書器目録』(蔵書目録)の明治13年には“Die beiden Grund-problemen der Ethik”(倫理学の根本問題)が、また同じ年の『東京大学法理文学部図書館洋書目録』にも“His Life and his Philosophy”(評伝)を目にすることができる。主著『意志と表象としての世界』は、明治24年の帝国大学図書館洋書目録に掲載の全集(Sammtliche Werke, 6 Bde, Leipzig 1877)に含まれているし、明治29年の目録にもドイツ語全集ほか著作などが8タイトル収録されている。現在残っている丸善の洋書目録では明治26年版に掲載の英語版が最も早い。帝大図書館は留学生を通じて受け入れたのか、丸善などドイツ書輸入店から購入したものか不明である。ともあれ、現在調べられる限りでは『意志と表

象』は明治20年代初頭が輸入の初めであったと思われる。

井上に続いて、高山樗牛が『厭世論』(明治25年)でショーペンハウアーを論じているが、明治26年にお雇い外国人として東京帝国大学に哲学教師として招聘されたケーベル(Raphael von Koeber 1848-1923、ロシア国籍のドイツ人)はショーペンハウアーを信奉する哲学者で、彼の教え子からは西田幾太郎、桑木厳翼、姉崎正治、高山樗牛、波多野精一、阿部次郎、阿部能成、九鬼周造、和辻哲郎などショーペンハウアー受容の歴史で重要な役割を果たす学者が輩出する。ケーベルの21年におよぶ帝大での教育活動は、西洋哲学の扶植、特にドイツ哲学の主流化に絶大な影響を及ぼした。また、彼はピアノに優れた才能をもっていたため、上野の音楽学校の懇請で10年ほどピアノの教師をしたが、彼の教え子から幸田延子、滝廉太郎などが生まれ、音楽教育でも貢献が大きかった。大正3年にお雇い外国人としての契約が終了したが、望んでいたドイツへの渡航も第1次世界大戦の勃発で果たすことができずに大正12年に日本で74歳の生涯を終え、今は雑司が谷の外人墓地に眠っている。

翻訳では、中江兆民が『倫理学の根本問題』をビュールドーの仏訳から重訳した『道徳学大原論』を明治27年に上梓したのが最初であった。またショーペンハウアーの受容における東京帝国大学の姉崎正治の功績は大きく、主著の初めての訳を手掛け、明治43年から45年にわたって『意志と現識としての世界』を全3巻で出版する。この訳書に触発された天野貞裕(戦後文部大臣を勤めた)は丸善でレクラム版を購入して愛読し、後年カントの『純粹理性批判』の訳業に見事な成果を挙げる。

この時代は、華嚴の滝で投身自殺した藤村操などショーペンハウアーの世紀末的パessimismに染まった悩める若者が生まれるが、その影響は哲学の世界に止まらず、森鷗外、島村抱月、萩原朔太郎、長与善郎、芥川龍之介など多くの文学者も傾倒した。萩原朔太郎は詩集『青猫』の詩作の頃を追想し「ショーペンハウエルだけが、時々影のように現れて来て、自分の悲しみを慰めてくれた」と述懐している。日本の近代哲学史を横切った増富平蔵もブームに流れた時代の申し子であったのだろう。

うちの会社

株式会社 フランス図書

岡見 純

「うちの会社」は1967年（昭和42年）4月の創業ですが、私にはご存知の方も多いと思いますが前歴があります。私が学生アルバイトとして1950年2月に入社した紀伊國屋書店の洋書課は創設されて一年に満たない頃で、課員も10名程、終電を気にしながら残業の日々でした。半年後にフランス担当のE氏が退職、後任としてフランス書の仕入を任されて12年、一昨年の5月に亡くなった、当時専務であった竹内博さんが田辺茂一社長の許を離れて1962年に竹内書店を設立された時に、私も随行、新設の竹内書店でもフランス書を担当、5年後に竹内さんの許しを得て、フランス書の専門店を標榜して開業した次第です。幸い社員に恵ま

れて、以来四半世紀をとうに超え、大過なく今日に至っています。

創業以来、最も力を注いで出し続けて来た情報誌『LF』（Livers de France）は目下245冊目を作製中で、製作方法は時代を映して幾度かの変遷を重ねましたが現在はコンピュータによって処理されています。

紙に印刷された商品を仕入れ、販売することから出発した私も一昨年から老齢年金が受けられる身となりました。扱う商品も多様化し、CD-ROMにまで及んで「うちの会社」も世代の交代期に達しました。

己の過去を語る気になったことは老境に入った証でしょうか。

総代理店ご案内

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ (03) 3291-4541

Grotius Publications(U. K.)	総代理店
Harry N. Abrams, Inc.(U. S. A.)	ストックスキト
The Easton Press (U. S. A.)	ストックスキト
Lewis Publishers (U. S. A.)	ストックスキト

下記出版社の代表業務を停止いたしました。

Harrap Books Ltd. (U. K.)

Belhaven Press (U. K.)

お知らせ

下記の通り電話番号等変更の連絡がありましたので、お知らせします。 (1993年12月20日より)

医歯薬出版(株)

Tel. (03) 5395-7631

Fax. (03) 5395-7633

編集後記

JBIAの会報も昨年末に319号と数を加え、業界として記録に残すべきこと、新しいニュース、報告、サークル活動のレポートなど、協会の発展と親睦に役立つと思われる記事を限られた紙面のなかに生かすように努めて参りました。

会報委員会は毎月一回編集会議を開き、誌面がマンネリに落ちないよう無い知恵を絞っておりますが、何分固定的なメンバーのみでは、どうしても発想のユニークに欠けてくる傾向があります。より内容の濃い会報とするために、もっと、こういう点にスポットを当てたら——こういうシリーズを始めたら——とか、ご意見ご希望をお寄せ頂ければ幸いと存じます。

この頃の厳しい経済情勢を踏まえて、業界内のアンケート調査を試みて、その結果をご報告すること等も考えられます。

また、JBIA 会報も300号まで、クロース装の合本となり、こういう体裁になりますと毎号の薄っぺらな会報も、なかなか捨てたものではありません。この機会に、ぜひ貴社の書架にお加え下さい。

合本第2号101～200号 (特価) ¥2,500 (送料込み)

” 第3号201～300号 ¥5,000 (”)

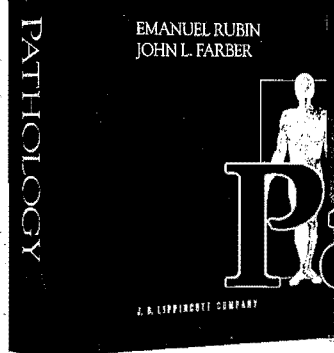
” 第2号+第3号一括購入の場合

(特価) ¥7,000 (”)

NEW!!

J.B.LIPPINCOTT MEDICAL BOOKS

Lavishly illustrated new 2nd edition has been wholly rewritten and updated to reflect advances in the research of disease processes!



PATHOLOGY

SECOND EDITION

Pathology

EDITED BY

Emanuel Rubin, M.D.

Gonzalo E. Aponte Professor and Chairman
Department of Pathology and Cell Biology
Jefferson Medical College
Thomas Jefferson University
Philadelphia, Pennsylvania

John L. Farber, M.D.

Professor of Pathology and Cell Biology
Jefferson Medical College
Thomas Jefferson University
Philadelphia, Pennsylvania

With 39 contributors

- 1594pp. 1913illus.
(149 in full color), 166tables
1994 ¥12,240
(add 3% consumption tax)



Lippincott

A Wolters Kluwer Company

図説病理学テキスト 第2版

本書は、一般病理学と全身病理学の確かな知識を幅広く提供し、その情報を今日の分子生物学と全面的に統合し、さらに臨床医学とも関連させて記述した新しい病理学テキストとして1988年初版発行以来、病理学を学ぶ医学生必読の書として好評を得ている。今回5年振りに改訂された第2版では、トーマス・ジェファーソン大医学部ルービン、ファーバー両博士を中心に全米の最高権威39氏が執筆にあたり、目覚ましく進歩する病理学の最新研究に即して細胞病理学の新章を追加するなど全面改訂している。また様々な疾患の原因を理解する上で重要な分子遺伝学の視点から疫学、病因、疾患の臨床所見などについて大変分かり易く解説している。さらに第2版では、数百点のカラー顕微鏡写真を追加するなど総計1900余点の写真・イラストを掲載して、一層グラフィックなテキストとなっている。本書は現代の病理学を多数のイラストと簡潔な記述により解説した今日の病理学教育に必須のスタンダード・テキストである。

● Also available...

REVIEW OF PATHOLOGY

by Ivan Damjanov & Emanuel Rubin

- 360pp. 78illus. (48 in color), 29 tables 1994 ¥4,500

J.B.LIPPINCOTT

Subsidiary of
Wolters-Kluwer

IGAKU-SHOIN

Exclusive Distributor in Japan

IGAKU-SHOIN Ltd., Foreign Publications Dept.

HOMEI BLDG. 1-28-26 HONGO, BUNKYO, TOKYO 〒113 ☎(3817)5670~1

1994年1月 通巻第320号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社